

中期目標の達成状況に関する評価結果

新潟大学

平成29年6月

大学改革支援・学位授与機構

目 次

法人の特徴	1
(法人の達成状況報告書から転載)	

評価結果

《概要》	5
《本文》	9
《判定結果一覧表》	19

法人の特徴

大学の基本的な目標（中期目標前文）

新潟大学は、高志（こし）の大地に育まれた敬虔質実の伝統と世界に開かれた海港都市の進取の精神にもとづいて、自律と創生を全学の理念とし、教育と研究を通じて、地域や世界の着実な発展に貢献することを、全学の目的とする。

この目的を実現するために、新潟大学は、人文社会・教育科学系、自然科学系、医歯学系の全般にわたる大規模総合大学として、社会の文化・倫理の向上と、自然的・社会的環境の保全に全力を尽くす。また、日本海側で唯一の政令指定都市・新潟という、中国、韓国、極東ロシア、モンゴルなどの東アジア地域を目前に据えた地域に生きる大規模総合大学であり、そのロケーションを強く意識しながら、教育と研究及び社会貢献を通じて、世界と日本の平和と発展に寄与する。

新潟大学は、世界トップレベルの、卓越した、特色のある研究と教育の拠点を構築し、その総合力を生かして、全国の最先端に行く主専攻プログラムを中心とする特色ある学士課程教育により、総合的な教養教育と専門教育の融合を行い、幅広い職業人を養成する。このような総合的な教育の上に、大学院において時代の要求に即応することのできる、より進んだ学際的な教育と研究を行い、高度の専門的職業人を養成する。

このような教育と研究の成果を地域に還元するために、新潟県や新潟市、多くの地場産業との産学官連携事業を行い、地域の発展に寄与し、地域の生涯教育にも力を尽くし、子どもたちの理数離れにも対応する地域活動を行う。また、医歯学総合病院は、医療専門人の養成や先進的医療技術の開発を行い、地域の中核的な病院として、地域住民の安心・安全の最後の砦となる。

- 1 新潟大学は、長い歴史と豊かな伝統をもち、環日本海地域における学術の中心としての役割を果たしてきた。平成 27 年 5 月 1 日現在、9 学部（人文学部、教育学部、法学部、経済学部、理学部、医学部、歯学部、工学部、農学部）、7 研究科（教育学研究科、現代社会文化研究科、自然科学研究科、保健学研究科、医歯学総合研究科、技術経営研究科、実務法学研究科）、2 研究所（脳研究所、災害・復興科学研究所）、医歯学総合病院等を置き、12,519 人の学生と 2,879 人の教職員を擁している。
- 2 教育においては、専門分野だけでなく広い視野と均整の取れた知識の修得にも努め、学生に現代社会を生き抜く確固たる実力を身につけさせることを目指している。そのため、学位プログラム（人材育成目標に基づいてカリキュラム設計された教育プログラム）に基づく教育を推進している。特に、学士課程教育において、学位の質を保証し、学生が確かな学習成果を得るための「主専攻プログラム」と、特定の課題あるいは分野の学習成果を認証する「副専攻プログラム」を全国に先駆けて導入するなど、総合大学の教育資源を十二分に活かした自発的・発展的学習の機会を学生に提供している。また、これを支援するため、学生が自らの学びの質を確認・改善できる「新潟大学学士力アセスメントシステム（NBAS）」の運用を開始している。さらに、グローバル人材の育成に向けて、「新潟大学グローバル人材育成推進事業」、「大学の世界展開力強化事業」等を文部科学省の支援の下で進めている。
- 3 学生支援においては、学部・学年の区分を越えて形成する「第二のホーム」が地域連携に取り組むことで学生の汎用的能力を養う「ダブルホーム」の実施、ラーニング・コ

モンズ等を拡充した中央図書館のリニューアル、学生生活におけるきめ細かい相談体制の構築、キャリアセンターを中心とするキャリア形成支援と就職支援、大学独自の奨学金制度「輝け未来!!新潟大学入学応援奨学金」の開始など、学生がより成長するための環境の整備・充実を行っている。

- 4 研究においては、伝統的な専門分野における研究を一層深化させるとともに、積極的に分野を超え、あるいは異分野融合型の未来を見据えた新分野の研究を推進している。このため、分野横断型先端領域での研究拠点形成を促進する「超域学術院」や、学内組織にとらわれない教員等のグループが卓越した研究拠点の形成を目指す「コアステーション」を導入して、数多くの独創的で特色ある研究成果を世界に発信している。また、ヒト脳科学研究の国際的拠点を目指す「脳研究所」に加え、平成 23 年度に日本海側の総合的な自然災害研究拠点を目指して「災害・復興科学研究所」を設置した。
- 5 社会貢献活動においては、生涯学習支援、産学連携、国際交流、医療活動等を通じて、地域社会や国際社会の発展に貢献している。地域と連携したアートプロジェクトやまちづくりの継続的実施、「未来の科学者を養成する新潟プログラム」の実施、米粉の新たな利用に向けた行政・企業と連携しての研究開発、文部科学省「革新的イノベーション創出プログラム」サテライト拠点としてバイオマーカーの検索と計測システム開発を行っている。また、平成 27 年度文部科学省「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」に採択された『「ひと・まち・しごと」創生を循環させる NIIGATA 人材の育成と定着」事業を、本学を中心とする産金官学の連携により開始している。

【個性の伸長に向けた取組】

- 1 主体的な学習や確かな学習成果の獲得を支援するため、到達目標明示型の構造化された教育プログラムである「主専攻プログラム」（42 プログラム）を導入するとともに、到達目標の達成状況を数量的に把握するなど学習成果を可視化し、学習過程のアセスメントを支援する「新潟大学学士力アセスメントシステム（NBAS）」の構築を進めている。（関連する中期計画）計画 1－1－1－1、計画 1－2－2－2
- 2 我が国唯一の脳に関する大学附置の「脳研究所」は、文部科学省「脳神経病理標本資源活用の先端的共同研究拠点」に認定され、脳研究所が保有する世界有数の規模を誇る脳標本とその臨床データ、そして最先端の研究装置を活用して、連携融合事業「意識の脳科学」を推進するとともに、国内外の研究機関との連携を強化している。（関連する中期計画）計画 2－1－2－1、計画 2－2－4－1

【東日本大震災からの復旧・復興へ向けた取組等】

- 1 学長裁量経費の「研究プロジェクト経費」に、東日本大震災からの復興・復旧、将来の減災技術の開発に特化した「プロジェクト推進経費（災害特別）」を設定し、平成 23 年度は 15 事業に 20,000 千円、平成 24 年度 4 事業に 9,000 千円を配分した。
- 2 災害・復興科学研究所では、被災地において各専門分野による多面的な調査活動を実施し、被災地の復興及び生活再建に向けて、行政の復旧・復興期の業務支援、農地の復旧方法の提案、被災地域の社会再建、広域・巨大災害における地方自治体の災害対応業務や復興支援業務の体系化、放射性物質汚染農地のセシウム集積過程と効果的な除染方法の提案、放射線量の継続的な測定等を行うとともに、関連するシンポジウム等を開催して情報発信を行った。これらの取組に対し、被災自治体等から高い評価を受けた。

- 3 被災地における学生ボランティア活動の基本方針を策定するとともに、「震災ボランティアオリエンテーション」を開催し、被災地のボランティア活動における「心構え」、「体調管理」について指導したほか、被災地に向かう学生に防塵マスク、セーフティーインソール及び産業用保護手袋を支給するとともに、活動終了時にストレスチェック表を提出させてメンタル面のケアを行った。なお、ボランティアに延べ 269 人の学生が参加した。

評価結果

《概要》

第2期中期目標期間の教育研究の状況について、法人の特徴等を踏まえ評価を行った結果、新潟大学の中期目標（大項目、中項目、小項目）の達成状況の概要は、次のとおりである。

＜判定結果の概要＞

中期目標（大項目）	判定	中期目標（小項目）の判定の分布			
		非常に優れている	良好	おおむね良好	不十分
（Ⅰ） 教育に関する目標	おおむね良好				
① 教育内容及び教育の成果等に関する目標	おおむね良好		1	8	
② 教育の実施体制等に関する目標	良好	1		1	
③ 学生への支援に関する目標	おおむね良好		1	1	
（Ⅱ） 研究に関する目標	おおむね良好				
① 研究水準及び研究の成果等に関する目標	おおむね良好		2	3	
② 研究実施体制等に関する目標	おおむね良好		2	3	
（Ⅲ） その他の目標	おおむね良好				
① 社会との連携や社会貢献に関する目標	おおむね良好		1	2	
② 国際化に関する目標	おおむね良好			4	

＜主な特記すべき点＞

「戦略性が高く意欲的な目標・計画」に認定されている取組

- 各主専攻プログラムでは、到達目標の再検討とカリキュラムマップの重み付けにより学位プログラムとしての構造化を進めるとともに、新潟大学学士力アセスメントシステム（NBAS）等の学修支援ツールの開発等により学修成果の可視化を実現している。（中期計画 1-1-1-1）
- 平成 22 年度の大学 ID システムと学内情報システムの認証連携の利便性の向上や、学外から学内情報システムへ接続するための SSL-VPN サービスの提供開始、平成 23 年度のコンピューターシステムの更改、平成 25 年度のネットワーク接続・認証管理の一元化及びネットワークシステムの更新による高速ネットワーク環境の提供等、利用者の接続環境を改善しており、学生の学習スペースである「PC カフェ CAIS」の教育用パソコンの月平均の利用者数は、コンピューターシステム更新前の 123 名から更新後の 198 名へ増加している。また、中央図書館において、講習を受講した学部生等をラーニングアドバイザーとして、ラーニング・コモンズに配置し、学習方法や IT 機器の使用方法についてアドバイスするなどの人的支援を行っている。さらに、平成 24 年度の中央図書館の増改修工事によりラーニング・コモンズを拡充するなど、能動的な学習形態に対応できる学習環境の充実を図っており、中央図書館の年間利用者は平成 22 年度の約 50 万名から平成 27 年度の約 96 万名へ増加している。（中期計画 1-2-2-1）
- 学習成果を可視化する機能と学習過程を蓄積する機能を持った新潟大学学士力アセスメントシステム（NBAS）を構築し、教員のアドバイスを受けながらセメスターごとに学生自らが学習過程を分析する取組を平成 26 年度から全学的に導入している。さらに、運用に関する教職員のファカルティ・ディベロップメント（FD）等を重ねながら、システムの円滑な実施に努めており、教育戦略フォーラムにおいて取組・成果を公表したほか、学内外から必要な情報を収集し、英語による著書、学術論文、口頭発表を通して広く発信するなど、システムの評価・改善に取り組んでいる。（中期計画 1-2-2-2）

個性の伸長に向けた取組

- 脳神経病理標本資源と先端的な非侵襲的脳活動検索装置の活用により、難治性の脳神経疾患の病態解明研究等を行い、対象論文がインパクトファクターの高い雑誌に掲載されるなどの成果があがっている。特に、ヒト生体脳における水チャンネル AQP4 分布の画像化に成功し、アルツハイマー病の早期予防の可能性を開く研究成果があがっている。（中期計画 2-1-2-1）
- 脳研究所では、脳神経病理標本資源活用の先端的共同研究拠点として、脳神経病理標本資源を用いた全国の大学や研究機関との公募型共同研究の件数が、平成 22 年度の 28 件から平成 27 年度の 49 件へ増加し、共同研究課題の研究成果が高いインパクトファク

ターを持つ国際学術誌に掲載されるなど、ヒト脳科学の国際的な研究拠点化を進めている。（中期計画 2-2-4-1）

注目すべき取組

- 「ソーシャル・スキルズ」や「ソーシャル・スキルズ演習」の開講、正課外における地域の教育力を活用したダブルホーム活動の継続的な実施により、ダブルホーム活動への参加者が 300 名を超えるとともに、ソーシャル・スキルズ受講の前後を比べると社会人基礎力診断結果の平均得点は 328.8 点から 332.5 点へ上昇している。加えて、これらの演習、体験活動とキャリア意識形成科目との相乗的教育効果により、学生のキャリア形成が一層進展している。また、大学が主導する長期・有償型インターンシップ・プログラム、農学部における段階的就業力育成プログラム、自然科学研究科を中心とするインターンシップによる博士人材のキャリア開発事業等、社会人としての汎用的能力を養成するインターンシップを行っている。（中期計画 1-1-5-3）

＜復旧・復興への貢献・支援活動等に関係した顕著な取組＞

- 学長裁量経費の「研究プロジェクト経費」に、東日本大震災からの復興・復旧、将来の減災技術の開発に特化した「プロジェクト推進経費（災害特別）」を設定し、平成 23 年度は 15 事業に 20,000 千円、平成 24 年度 4 事業に 9,000 千円を配分した。

このほかの取組は、法人の特徴「東日本大震災からの復旧・復興へ向けた取組等」欄にあるとおりである。

《本文》

（Ⅰ） 教育に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

（判断理由）「教育に関する目標」に関する中期目標（3項目）のうち、1項目が「良好」、2項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

（1）教育内容及び教育の成果等に関する目標

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

（判断理由）「教育内容及び教育の成果等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（9項目）のうち、1項目が「良好」、8項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。なお、「おおむね良好」と判定した8項目のうち1項目は「戦略性が高く意欲的な目標・計画」に認定された1計画を含む。

＜特記すべき点＞

（優れた点）

○学位プログラムの構造化及び学修成果の可視化

中期目標（小項目）「社会の多様なニーズに対応できる到達目標達成型の構造化された教育プログラムを整備し充実を図る。」について、各主専攻プログラムでは、到達目標の再検討とカリキュラムマップの重み付けにより学位プログラムとしての構造化を進めるとともに、新潟大学学士力アセスメントシステム（NBAS）等の学修支援ツールの開発等により学修成果の可視化を実現している。
（中期計画 1-1-1-1）

○学生のキャリア形成の推進

中期目標（小項目）「グローバル化した知識基盤社会で、生涯にわたり自立した学習を継続することのできる人材を育成するための授業科目を整備する。」について、「ソーシャル・スキルズ」や「ソーシャル・スキルズ演習」の開講、正課外における地域の教育力を活用したダブルホーム活動の継続的な実施により、ダブルホーム活動への参加者が 300 名を超えるとともに、ソーシャル・スキルズ

受講の前後を比べると社会人基礎力診断結果の平均得点は 328.8 点から 332.5 点へ上昇している。加えて、これらの演習、体験活動とキャリア意識形成科目との相乗的教育効果により、学生のキャリア形成が一層進展している。また、大学が主導する長期・有償型インターンシップ・プログラム、農学部における段階的就業力育成プログラム、自然科学研究科を中心とするインターンシップによる博士人材のキャリア開発事業等、社会人としての汎用的能力を養成するインターンシップを行っている。（中期計画 1-1-5-3）

（特色ある点）

○初年次教育の推進

中期目標（小項目）「グローバル化した知識基盤社会で、生涯にわたり自立した学習を継続することのできる人材を育成するための授業科目を整備する。」について、初年次教育において、教育学部「フレンドシップ実習」、工学部「マーケット・インターンシップ」、農学部「地域交流サテライト実習」等のキャリアを意識した教育を行うとともに、これらの実績を踏まえて構想した初年次生対象の長期学外学修プログラムが、文部科学省の平成 27 年度大学教育再生戦略推進費「大学教育再生加速プログラム（AP）」の採択につながっている。

（中期計画 1-1-5-1）

（２）教育の実施体制等に関する目標

【評価結果】中期目標の達成状況が良好である

（判断理由）「教育の実施体制等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（２項目）のうち、１項目が「非常に優れている」、１項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。なお、「非常に優れている」と判定した１項目は「戦略性が高く意欲的な目標・計画」に認定された２計画を含む。

＜特記すべき点＞

（優れた点）

○学生の主体的な学習環境の整備

中期目標（小項目）「双方向型学習支援により、学生の主体的な学習を支援する設備・システムを整備・充実させる。」について、平成 22 年度の大学 ID システムと学内情報システムの認証連携の利便性の向上や、学外から学内情報システムへ接続するための SSL-VPN サービスの提供開始、平成 23 年度のコンピューターシステムの更改、平成 25 年度のネットワーク接続・認証管理の一元化及びネッ

トワークシステムの更新による高速ネットワーク環境の提供等、利用者の接続環境を改善しており、学生の学習スペースである「PC カフェ CAIS」の教育用パソコンの月平均の利用者数は、コンピューターシステム更新前の 123 名から更新後の 198 名へ増加している。また、中央図書館において、講習を受講した学部生等をラーニングアドバイザーとして、ラーニング・コモンズに配置し、学習方法や IT 機器の使用方法についてアドバイスするなどの人的支援を行っている。さらに、平成 24 年度の中央図書館の増改修工事によりラーニング・コモンズを拡充するなど、能動的な学習形態に対応できる学習環境の充実を図っており、中央図書館の年間利用者は平成 22 年度の約 50 万名から平成 27 年度の約 96 万名へ増加している。（中期計画 1-2-2-1）

○新潟大学学士力アセスメントシステム（NBAS）の構築

中期目標（小項目）「双方向型学習支援により、学生の主体的な学習を支援する設備・システムを整備・充実させる。」について、学習成果を可視化する機能と学習過程を蓄積する機能を持った新潟大学学士力アセスメントシステム（NBAS）を構築し、教員のアドバイスを受けながらsemesterごとに学生自らが学習過程を分析する取組を平成 26 年度から全学的に導入している。さらに、運用に関する教職員のファカルティ・ディベロップメント（FD）等を重ねながら、システムの円滑な実施に努めており、教育戦略フォーラムにおいて取組・成果を公表したほか、学内外から必要な情報を収集し、英語による著書、学術論文、口頭発表を通して広く発信するなど、システムの評価・改善に取り組んでいる。

（中期計画 1-2-2-2）

（特色ある点）

○包括的修学支援の実施

中期目標（小項目）「全学の教育的必要に基づいて授業科目を開設できる体制を充実させるために、教育組織、学系、教育・学生支援機構（仮称）の三者が、それぞれの役割分担を踏まえて有機的に連携し、責任ある教育体制の充実を図る。」について、平成 22 年度に教育・学生支援機構を設置し、同機構の専任教員と学務部事務職員との協働により、機動的・戦略的に人員を活用しながら、学生の入学から卒業（修了）まで一貫した包括的修学支援を行っている。

（中期計画 1-2-1-2）

(3) 学生への支援に関する目標

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「学生への支援に関する目標」の下に定められている具体的な目標(2項目)のうち、1項目が「良好」、1項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

○学生への経済的支援の充実

中期目標(小項目)「学生を経済的に支援するための新たな仕組みを構築する。」について、経済的理由により進学が困難な入学希望者に対して、入学時納付金相当額給付と学生寮への優先入居・寮費免除を内容とする、輝け未来!!新潟大学入学応援奨学金と、学資負担者の家計の急変により学業の継続が困難となった者に対する、新潟大学修学応援特別奨学金を平成22年度に創設している。また、学生支援に係る補助業務に従事した学生に対し謝金を支払う学生スタッフ制度を平成25年度に整備し、学生への経済的支援を行う大学独自の新たな仕組みを構築している。(中期計画1-3-2-1)

(Ⅱ) 研究に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「研究に関する目標」に関する中期目標(2項目)のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「研究水準及び研究の成果等に関する目標」の下に定められている具体的な目標(5項目)のうち、2項目が「良好」、3項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

○研究戦略企画室の創設による外部資金の獲得推進

中期目標(小項目)「研究の自由を担保し、多様な基礎的研究を土台として、分野横断的・創造的な特徴ある先端的研究を推進する。」について、平成23年度に研究戦略企画室を創設し、外部資金獲得に向けた支援を行い、科学研究費助成事業の採択件数は平成22年度の543件から平成27年度の755件へ、採択金額は約12億1,400万円から約17億6,500万円へ増加している。このほかの成果として、文部科学省の革新的イノベーション創出プログラム(COI STREAM)のサテライト拠点、内閣府の戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)、文部科学省の感染症研究国際展開戦略プログラム等の外部資金を獲得している。

(中期計画2-1-1-2)

○難治性の脳神経疾患の病態解明研究等の推進

中期目標(小項目)「「脳の病気の解明からこころの理解へ」の研究を推進する。」について、脳神経病理標本資源と先端的な非侵襲的脳活動検索装置の活用により、難治性の脳神経疾患の病態解明研究等を行い、対象論文がインパクトファクターの高い雑誌に掲載されるなどの成果があがっている。特に、ヒト生体脳における水チャンネルAQP4分布の画像化に成功し、アルツハイマー病の早期予防の可能性を開く研究成果があがっている。(中期計画2-1-2-1)

○歯学部における研究の推進

歯学部において、摂食嚥下に関する基礎研究、臨床研究における国際研究を行い、地域・国際口腔保健プロモーション及び地域包括ケア等、現代歯科界の社会ニーズに対応し、特に新潟地域で展開された高齢者コホート研究では国際歯科研究学会（IADR）の Distinguished Scientist Award を受賞しており、得られた研究成果が世界保健機関（WHO）等の政策立案に寄与している。（現況分析結果）

○農学部における研究の推進

農学部において、卓越した研究業績として、地域環境工学・計画学の「田んぼダムに関する研究」があり、実際の田んぼダムにおいて、研究代表者らが開発した「フリードレーン用調整管」が採用されている。（現況分析結果）

○農学部における研究成果による各賞の受賞

農学部において、特徴的な研究業績として、応用分子細胞生物学の「高温・高CO₂環境に適応する次世代イネの開発研究」があり、イネ α -アミラーゼの研究論文が平成 26 年に日本農芸化学会論文賞を受賞している。（現況分析結果）

○自然科学研究科における研究の推進

自然科学研究科において、超域学術院やコア・ステーションにおける研究プロジェクトで従来の研究分野の枠を超えた学際的な研究を行っている。学術面では、素粒子・原子核・宇宙線・宇宙物理、通信・ネットワーク工学、無機材料・物性、植物分子・生理科学等、理学・工学・農学の多岐にわたる細目で卓越した研究成果をあげており、Zoological Science Award や文部科学大臣表彰科学技術賞等の 74 件の受賞がある。（現況分析結果）

○自然科学研究科における社会に注目される研究の推進

自然科学研究科において、社会、経済、文化面では、偏波レーダを用いた地球環境観測等の社会的に注目された研究成果がある。（現況分析結果）

○自然科学研究科における研究成果による各賞の受賞

自然科学研究科において、素粒子・原子核・宇宙線・宇宙物理の「素粒子のフレーバー対称性によるニュートリノの世代構造の研究」では、総合レビュー論文の被引用件数が 391 件以上となっているほか、日本物理学会論文賞等を受賞している。また、無機材料・物性の「白色 LED 用新規蛍光体材料の開発に関する研究」の成果により特許出願件数が 10 件、国際学会での招待講演が 11 回となっているほか、日本希土類学会賞を受賞している。（現況分析結果）

○自然科学研究科における研究成果の実用化

自然科学研究科において、無機化学の「新元素の 113 番元素の合成」は、当該研究科教員を含む研究グループが 113 番元素の命名権を得た研究であり、学術面と社会、経済、文化面の両面から注目されている。また、地域環境工学・計画学の「田んぼダムに関する研究」は、流域スケールにおける田んぼダムの効果をシ

ミュレーションによって定量的に評価したもので、豪雨時の水害の軽減に資するものであり、研究代表者等が開発した「フリードレーン用調整管」は県内において実用化されている。（現況分析結果）

（特色ある点）

○里地里山の自然再生学を実現する佐渡モデルの構築

中期目標（小項目）「文理融合の新たな学際的環境科学として、地域の自然再生学を構築する。」について、超域朱鷺プロジェクト、佐渡市からの寄附講座、文部科学省の地域再生人材創出拠点の形成事業において、環境省、地元自治体、地元住民等と連携した事業を展開し、里地里山の自然再生学を実現する佐渡モデルを構築している。また、事業の修了生による里山ガイド（有償ガイド）、佐渡の自然を守る会の設立、援農支援システムの設置等の成果がある。

（中期計画 2-1-3-1）

（２）研究実施体制等に関する目標

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

（判断理由）「研究実施体制等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（５項目）のうち、２項目が「良好」、３項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

＜特記すべき点＞

（優れた点）

○基礎的研究から先端的研究までの研究環境の整備

中期目標（小項目）「研究の内容・水準、社会の要請などを考慮して、公正・透明性を保った研究資金の配分を行う。」について、基礎的研究から先端的研究まで、外部資金への申請を含めた研究環境を整備し、共同研究の受入件数は平成 22 年度の 205 件から平成 27 年度の 231 件へ、受入金額は約 2 億 1,800 万円から約 2 億 8,700 万円へ増加している。受託研究の受入件数は平成 22 年度の 158 件から平成 27 年度の 227 件へ、受入金額は約 8 億 1,200 万円から約 11 億 7,600 万円へ増加している。寄附講座・寄附研究の受入件数は平成 22 年度の 3 件から平成 27 年度の 13 件へ、受入金額は 7,900 万円から約 3 億 4,700 万円へ増加している。また、受託研究費等に加え、共同研究費にも間接経費を新たに導入し、大学の自己資金とこれらの経費を活用して、産学官連携コーディネーターやリサーチ・アドミニストレーター等を配置・増員したことにより、科学研究費助成事業の採択率向上や、革新的イノベーション創出プログラム（COI STREAM）、文部科学省の大学

等シーズ・ニーズ創出強化支援事業（イノベーション対話促進プログラム）等の競争的資金の獲得につながっている。（中期計画 2-2-2-2）

○ヒト脳科学の国際的な研究拠点化の推進

中期目標（小項目）「脳研究所は、「脳神経病理標本資源活用の先端的共同研究拠点」として、ヒト脳科学の国際的な研究拠点を目指す。」について、脳研究所では、脳神経病理標本資源活用の先端的共同研究拠点として、脳神経病理標本資源を用いた全国の大学や研究機関との公募型共同研究の件数が、平成 22 年度の 28 件から平成 27 年度の 49 件へ増加し、共同研究課題の研究成果が高いインパクトファクターを持つ国際学術誌に掲載されるなど、ヒト脳科学の国際的な研究拠点化を進めている。（中期計画 2-2-4-1）

（特色ある点）

○若手研究者・研究発芽・研究推進への重点支援

中期目標（小項目）「研究の内容・水準、社会の要請などを考慮して、公正・透明性を保った研究資金の配分を行う。」について、若手研究者・研究発芽・研究推進に重点を置いて、プロジェクト推進経費による支援を行っており、科学研究費助成事業における挑戦的萌芽研究の新規採択金額は、平成 23 年度の約 9,000 万円から平成 27 年度の約 1 億 3,000 万円へ増加し、基盤研究（A）、基盤研究（B）、若手研究（A）等の採択につながっている。（中期計画 2-2-2-1）

○研究成果の社会実装・社会還元の実施

中期目標（小項目）「特徴的で実績のある学内共同研究は、全国共同利用を目指し、国内外における研究ネットワークを構築することによりさらに研究活動を活性化させる。」について、災害・復興科学研究所において、減災施策の提言や発災時の災害対応等、研究成果の社会実装・社会還元の実施等で成果をあげるとともに、斜面災害研究に関する World Center of Excellence に認定されている。（中期計画 2-2-5-1）

○慢性腎臓病克服に向けた基盤研究の推進

中期目標（小項目）「特徴的で実績のある学内共同研究は、全国共同利用を目指し、国内外における研究ネットワークを構築することによりさらに研究活動を活性化させる。」について、医歯学総合研究科附属腎研究施設において、腎組織と尿のプロテオーム（蛋白発現）データベースを構築・公開するとともに、革新的イノベーション創出プログラム（COI STREAM）のサテライト事業等の活動を行い、慢性腎臓病克服に向けた基盤研究を進めている。（中期計画 2-2-5-2）

(Ⅲ) その他の目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「その他の目標」に関する中期目標(2項目)のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

(1) 社会との連携や社会貢献に関する目標

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「社会との連携や社会貢献に関する目標」の下に定められている具体的な目標(3項目)のうち、1項目が「良好」、2項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

○地域への教育研究成果の還元

中期目標(小項目)「地域へのまなざしを持って活動する大学として、教育研究成果を地域に還元し、地域との連携協力を推進する。」について、佐渡金銀山・ジオパーク及び災害等の地域と密着した企画展を継続的に行うなど、企画内容に工夫を凝らすことにより、旭町学術資料展示館の入館者及びその活動の参加者は平成21年度の3,774名から平成27年度の7,157名へ増加し、地域の活性化や地域への教育研究成果の還元と生涯学習に寄与している。(中期計画3-1-2-2)

○地域と協働したまちづくり・芸術活動の実施

中期目標(小項目)「地域へのまなざしを持って活動する大学として、教育研究成果を地域に還元し、地域との連携協力を推進する。」について、地域と協働したまちづくり・芸術活動を継続的に実施し、三条市民と大学の協働によるまちの中の小さな里山づくりや、「アートクロッシングにいがた 西区 DE アート」の事業において、手づくり郷土賞やまちづくり賞等を受賞している。また、小中高校生を対象とした大学教育レベルの講座の開設や、中学・高校生を対象としたアドバンストコースの個別指導等、未来の科学者を育成する新潟プログラムを組織的かつ継続的に実施し、子どもの理数離れ対策活動に取り組んでいる。

(中期計画3-1-2-3)

(2) 国際化に関する目標

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「国際化に関する目標」の下に定められている具体的な目標(4項目)のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

＜特記すべき点＞

(優れた点)

○海外留学の推進

中期目標(小項目)「研究を基盤とする教育環境の推進を目指し、留学生の受入れ及び学生の海外への派遣を推進する体制を整備する。」について、海外留学協議会(JAOS)認定留学カウンセラーの配置や、全学留学ガイダンスの定期開催等、留学相談体制の充実により、日本学生支援機構の各種奨学金や文部科学省のグローバル人材育成推進事業等に採択され、派遣留学者数は平成22年度の352名から平成27年度の565名へ増加している。(中期計画3-2-2-2)

○英語教育の推進

中期目標(小項目)「異文化理解能力と多層的視点を備え、社会の国際化に対応できる人材を育成する。」について、平成23年度からのEGAP(English for General Academic Purposes: 一般学術目的の英語)の運用能力育成を目標とする新英語教育カリキュラムの実施により、TOEIC IPの平均スコアは平成22年度の452.7点から平成27年度の482.5点へ上昇しており、グローバル人材育成推進事業における3学部対象の実践英語教育プログラムS.P.A.C.E.(Skills Program for Academic and Content English)の履修者数は平成25年度の86名から平成27年度の246名へ増加している。また、平成24年度のネットワーク型教材NetAcademy2を用いた学習の追加導入や、平成25年度の外国語学習支援スペースFL-SALC(Foreign Language Self-Access Learning Center)の設置等、英語の自律学習支援を強化している。また、グローバル人材育成推進事業の採択に伴ってネイティブスピーカーの採用等が進んだことにより、各学部・研究科における講義・演習を外国語で実施する授業科目が増加しており、英語の利用を促進している。

(中期計画3-2-3-1)

《判定結果一覧表》

中期目標（大項目）			判定	特記すべき点
中期目標（中項目）				
中期目標（小項目）				
計画番号	中期計画			
(I) 教育に関する目標			おおむね良好	
① 教育内容及び教育の成果等に関する目標			おおむね良好	
社会の多様なニーズに対応できる到達目標達成型の構造化された教育プログラムを整備し充実を図る。			おおむね良好	
○	1-1-1-1	各学問領域の特性に応じて、到達目標と、学習方略を明示した主専攻プログラムの充実を図る。	良好	優れた点
	1-1-1-2	主専攻プログラムの到達目標を基礎として、卒業生が共通に持つべき資質・能力（新潟大学型教養）を確立し、そのための教育体制を整備する。	おおむね良好	
副専攻プログラムを充実させる。			おおむね良好	
	1-1-2-1	副専攻プログラムを充実させるとともに、副専攻の履修を社会人等に拡大する。	おおむね良好	
大学院に対する社会からの多様な要請に応え得る到達目標達成型の教育体制を整備する。			おおむね良好	
	1-1-3-1	多様な背景を有する大学院入学希望者に対応するため、各研究科の特性を踏まえ、学士課程と大学院課程との連続性又は非連続性に配慮した教育コースを策定する。	おおむね良好	
	1-1-3-2	大学院の教育プログラムの新設及び改定に伴い、平成19年度に保健学研究科保健学専攻博士後期課程を設置し、平成20年度に医歯学総合研究科口腔生命福祉学専攻博士前期課程を設置したほか、平成22年度から自然科学研究科博士課程の改組及び同後期課程の入学定員減と、医歯学総合研究科口腔生命科学専攻博士後期課程の設置及び同研究科口腔生命科学専攻博士課程の入学定員減を行うこととした。これに続き、大学院の各課程を、コアカリキュラムと複数のサブカリキュラムから構成される到達目標型教育プログラムとして整備する。	おおむね良好	
入学段階から大学院に至る多様な学習ニーズに対応した円滑な学習の機会を提供できる授業科目を開設する。			おおむね良好	
	1-1-4-1	入学段階から大学院教育まで円滑に接続する教育を実現するために、分野・水準表示法を大学院の授業科目にも拡充し、学士課程から博士課程に至る全授業科目を分野別に体系的に示す授業科目マップを構築する。	おおむね良好	
グローバル化した知識基盤社会で、生涯にわたり自立した学習を継続することのできる人材を育成するための授業科目を整備する。			良好	
	1-1-5-1	キャリア教育を組み入れた初年次教育科目の充実を図るとともに、関連する演習科目を拡充する。	良好	特色ある点

(注) 計画番号の前に○印がある中期計画は、戦略性が高く意欲的な目標・計画を示す。

中期目標（大項目）				判定	特記すべき点	
中期目標（中項目）						
中期目標（小項目）						
計画番号	中期計画					
	1-1-5-2	高等学校における学習から主専攻プログラムへ円滑に接続するために、自然系共通専門基礎科目を改善するとともに、人文社会系共通専門基礎科目の整備を図る。		おおむね良好		
	1-1-5-3	正課内（新潟大学個性化科目など）及び正課外を含め、地域の教育力を活用した学習機会の充実を図り、社会人としての汎用的能力を養成する。		非常に優れている	優れた点	
	質の高い教員を養成するために、総合大学における教員養成機能の充実を図る。			おおむね良好		
	1-1-6-1	平成20年度に教育人間科学部を教育学部に改組し、教員養成課程の入学定員増とそれ以外の課程の入学定員減を行った。この改組による効果も考慮しながら、大学全体としての組織的指導体制を確立するとともに、全学の人的資源を活用した教員免許取得・更新のカリキュラムを整備する。		おおむね良好		
	アドミッションポリシーを明確にして、それに即した入学者選抜方法となるよう、入学者選抜制度の充実を図る。			おおむね良好		
	1-1-7-1	入学後の学生の履修行動、成績と入学試験区分及び成績との相関関係を分析し、アドミッションポリシーに即した入学者選抜を行う。		おおむね良好		
	1-1-7-2	学生が学修する主専攻プログラムを入学後に選択することが可能な制度を拡大するために、各部局の実情を踏まえて、学士課程における学生募集単位を統合再編する。		おおむね良好		
	1-1-7-3	入学試験問題の改善を図るために、入学センターで、試験問題の妥当性、信頼性等の検証を行う。		おおむね良好		
	学生の教育成果の検証を基礎とした自己点検・評価を行い、各教育プログラムの改善を図る。			おおむね良好		
	1-1-8-1	学士課程教育プログラム（主専攻・副専攻）及び大学院教育プログラムを中核とした学習成果の検証を基礎として、各教育プログラムの改善を図る。		おおむね良好		
	体系的なFD／SDプログラムを構築するとともに、教育プログラム単位でのFD活動を支援する体制を整備して、教職員の教育能力の向上を図る。			おおむね良好		
	1-1-9-1	新任教員研修に始まる体系化されたFD／SDプログラムを整備する。		おおむね良好		
	1-1-9-2	教員の優れた授業の記録や、大学内において開発された優れた教材等を蓄積し、教育における共同利用の推進を図る。		おおむね良好		
	② 教育の実施体制等に関する目標				良好	
	全学の教育的必要に基づいて授業科目を開設できる体制を充実させるために、教育組織、学系、教育・学生支援機構（仮称）の三者が、それぞれの役割分担を踏まえて有機的に連携し、責任ある教育体制の充実を図る。				おおむね良好	
1-2-1-1 学系内に、授業科目分野区分に即した授業科目担当の仕組みを構築する。				おおむね良好		
1-2-1-2 全学教育機構と教育関係の諸センターとを発展的に統合・再編し、「教育・学生支援機構（仮称）」を設置するとともに、機動的・戦略的に人員活用ができる仕組みを構築する。				良好	特色ある点	

中期目標（大項目）				判定	特記すべき点
中期目標（中項目）					
中期目標（小項目）					
計画番号	中期計画				
	1-2-1-3	学部長をメンバーとする教育・学生支援機構会議（仮称）及び主専攻プログラムの代表者をメンバーとする教育コーディネーター会議（仮称）を設置し、全学的な教育システムと各教育プログラムとを有機的に連携させる。		おおむね良好	
	双方向型学習支援により、学生の主体的な学習を支援する設備・システムを整備・充実させる。			非常に優れている	
○	1-2-2-1	全学どこからでも常時インターネットに接続できる学内ネットワーク環境を整備するとともに、自主的学習のためのICT設備などの環境の充実を図る。		良好	優れた点
○	1-2-2-2	教員のアドバイスを受けながら、学生自らが学習過程を分析することのできる「アセスメントシステム」を構築する。		非常に優れている	優れた点
③ 学生への支援に関する目標				おおむね良好	
迅速・的確な学生相談体制を強化し、各学部・研究科と連携した学生支援を行うために、教職協働による学生支援組織を整備して、体系的な自律支援と進路支援を行う。				おおむね良好	
	1-3-1-1	教育・学生支援機構（仮称）に「学生相談支援センター（仮称）」を設置して、専任職員・医師・カウンセラーによる面談、及び学生スタッフによるピアサポートの体制を確立する。		おおむね良好	
	1-3-1-2	キャリアコンサルタントを増員し、学生の進路選択に関わる情報の収集とキャリア教育を行う。		おおむね良好	
	1-3-1-3	学生に、大学生活を送るための指針となるアセスメントを実施し、入学時から卒業時までの継続的な個別カウンセリングによる自律支援と進路支援を行う。		おおむね良好	
学生を経済的に支援するための新たな仕組みを構築する。				良好	
	1-3-2-1	新たな奨学支援事業の開拓や、学内業務に学生を臨時的に雇用し報酬を支払う制度の整備を行う。		良好	優れた点
(Ⅱ) 研究に関する目標				おおむね良好	
① 研究水準及び研究の成果等に関する目標				おおむね良好	
研究の自由を担保し、多様な基礎的研究を土台として、分野横断的・創造的な特徴ある先端的研究を推進する。				おおむね良好	
	2-1-1-1	研究の発芽、研究の推進、研究成果活用のそれぞれの研究フェーズで、地域や国内外に開かれた研究環境（イノベーション・オープン・モード）を整え、基礎的な研究と先端的研究を促進する。		おおむね良好	
	2-1-1-2	「研究戦略企画室」を創設し、基盤的研究・先端的研究の研究環境の充実と、競争的研究資金の獲得に向けて、情報収集・分析・研究計画の策定を戦略的に行う。		良好	優れた点
	2-1-1-3	超域研究機構を先端的研究プロジェクトの拠点として、コアステーションを学際的研究グループの自由な拠点として、その体制を充実させる。		おおむね良好	

中期目標（大項目）			判定	特記すべき点
中期目標（中項目）				
中期目標（小項目）				
計画番号	中期計画			
	「脳の病気の解明からこころの理解へ」の研究を推進する。		良好	
2-1-2-1	脳神経病理標本資源と先端的な非侵襲的脳活動検索装置を活用するヒト脳科学を探究する。		良好	優れた点
	文理融合の新たな学際的環境科学として、地域の自然再生学を構築する。		良好	
2-1-3-1	学際的環境科学の研究拠点として「新潟大学朱鷺自然再生学研究センター」を設置し、「朱鷺プロジェクト」による文理融合した研究グループを形成し、実践的教育研究活動を推進する。		良好	特色ある点
	大学での実績と社会からの要請に基づいて、特徴ある最先端の研究を推進する。		おおむね良好	
2-1-4-1	高度先端医療、バイオサイエンス、ナノテクノロジー、情報通信、環境・エネルギー、アジア研究等の分野の研究を積極的に推進する。		おおむね良好	
	研究の活性化、研究の質の向上を継続的に行うために、研究水準と成果を分野ごとに検証する体制を構築する。		おおむね良好	
2-1-5-1	研究論文等による国際的な評価と、科学研究費採択状況等による国内的な評価を併せた評価指標を用いて、各専門研究分野の特質に応じた研究評価基準を設定し、個人及び組織に対して、外部評価を中心とした研究活動の評価を実施する。		おおむね良好	
2-1-5-2	研究評価結果を研究者と学系等の組織にフィードバックし、プロジェクト推進経費や研究環境整備等のインセンティブに反映させる。		おおむね良好	
② 研究実施体制等に関する目標			おおむね良好	
	研究者の育成・支援のための体制を整備し、国内外から優れた研究者を確保する。		おおむね良好	
2-2-1-1	公募制・任期制等を活用した研究者選考を行う。		おおむね良好	
2-2-1-2	研究者育成のため、各学系の特性に合わせて優れた研究環境が実現されるテニユア・トラックを実施するとともに、在外研究制度を構築する。		おおむね良好	
	研究の内容・水準、社会の要請などを考慮して、公正・透明性を保った研究資金の配分を行う。		おおむね良好	
2-2-2-1	重点的研究費配分は、研究評価に基づき基礎的研究から先端的研究に渡し、若手研究者・研究発芽・研究推進に重点を置いてプロジェクト推進経費により行う。		おおむね良好	特色ある点
2-2-2-2	共同研究等の外部資金による間接経費も活用して、基盤的研究から先端的研究に対する研究環境を整備する。		良好	優れた点
	研究成果の社会への還元のために、知的財産の創出、取得、管理を組織的にを行い、その効果的な活用を促進する。		おおむね良好	
2-2-3-1	特許出願と知的財産管理の方法を整備して、技術移転・権利譲渡・共同研究の立ち上げ等に知的財産を効果的に活用する。		おおむね良好	

中期目標（大項目）			判定	特記すべき点
中期目標（中項目）				
中期目標（小項目）				
計画番号	中期計画			
	脳研究所は、「脳神経病理標本資源活用の先端的共同研究拠点」として、ヒト脳科学の国際的な研究拠点を目指す。		良好	
	2-2-4-1	脳研究所は、共同利用・共同研究拠点として、これまで収集した脳神経病理標本資源を活用する公募型共同研究を実施し、その成果を国内的・国際的に発信する。	良好	優れた点
	特徴的で実績のある学内共同研究は、全国共同利用を目指し、国内外における研究ネットワークを構築することによりさらに研究活動を活性化させる。		良好	
	2-2-5-1	災害復興科学センターは、学際的分野「災害復興科学」の全国的・国際的な研究ネットワークを構築し、共同研究を活性化させる。	良好	特色ある点
	2-2-5-2	大学院医歯学総合研究科附属腎研究施設は、慢性腎臓病の克服を目指し、国内外における研究ネットワークを構築する。	良好	特色ある点
(Ⅲ) その他の目標			おおむね良好	
① 社会との連携や社会貢献に関する目標			おおむね良好	
国際的な研究拠点大学として、研究成果を広く社会に還元し、地域貢献、国際貢献を推進する。			おおむね良好	
3-1-1-1	産官学の地域的な拠点としての大学間、地域・自治体及び東アジアを中心とした国際的なネットワークを構築する。		おおむね良好	
地域へのまなざしを持って活動する大学として、教育研究成果を地域に還元し、地域との連携協力を推進する。			おおむね良好	
3-1-2-1	大学の教育研究活動の成果を社会に還元するために、それらの成果や所有する貴重資料等の学術資料を「新潟大学学術リポジトリ」として電子データ化して、インターネットで学内外に発信する。		おおむね良好	
3-1-2-2	旭町学術資料展示館の博物館機能を強化・整備し、資料・標本等の系統的・体系的な収集・整理及びその公開を進め、地域の生涯学習への寄与を図る。		良好	優れた点
3-1-2-3	地域と協働したまちづくり・芸術活動や、出前授業、科学教室等による子どもの理数離れ対策活動を推進し、地域社会との連携を深める。		良好	優れた点
3-1-2-4	研究成果と学術情報は、シンポジウム、公開講座、法律相談、書籍等の多様な手段により発信し、国内外に広く、かつ、効果的に還元する。		おおむね良好	
3-1-2-5	地域社会への知的貢献を、駅南キャンパスを拠点に進める。		おおむね良好	
産学官連携を推し進める効率的な体制を整備し、優れた研究成果を社会・地域に還元する。			良好	
3-1-3-1	産学官連携を積極的に進めるために、研究インキュベーション機能、研究推進機能、研究活用・知的財産機能、地域連携機能、企画・運営機能を一体的にもつ「社会連携推進機構」として整備し、技術、医療等大学が持つ教育研究資源を地域社会の持続的発展に活用する。		良好	

中期目標（大項目）			判定	特記すべき点
中期目標（中項目）				
中期目標（小項目）				
計画番号	中期計画			
	② 国際化に関する目標		おおむね良好	
	大学の教育研究を活性化するために、国際交流を促進する。		おおむね良好	
	3-2-1-1	「国際戦略企画室」を創設し、国際的レベルでの教育研究環境の整備を行う。	おおむね良好	
	研究を基盤とする教育環境の推進を目指し、留学生の受入れ及び学生の海外への派遣を推進する体制を整備する。		おおむね良好	
	3-2-2-1	留学生500人を目指し、留学生受入体制を整備する。	おおむね良好	
	3-2-2-2	日本人学生が国際的に活躍できる能力を育むため、留学機会の増加を図る。	良好	優れた点
	3-2-2-3	関係諸団体及び留学生のネットワークとの連携を図り、国際交流を充実させる。	おおむね良好	
	異文化理解能力と多層的視点を備え、社会の国際化に対応できる人材を育成する。		おおむね良好	
	3-2-3-1	学生の英語運用能力の向上を図り、各専門分野における講義や演習における英語の利用を促進する。	良好	優れた点
	3-2-3-2	初修外国語教育システムの整備・充実を図る。	おおむね良好	
	世界に開かれた、高い水準の研究を促進する環境を整備する。		おおむね良好	
	3-2-4-1	国際的に評価の高い学術誌への投稿・採択を支援する。	おおむね良好	
	3-2-4-2	国際会議、国際シンポジウム、国際的な研究会の開催及び参加を促進する。	おおむね良好	

「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について

(1)	到達目標明示型の構造化された教育プログラムや双方向型学習支援により、学生の主体的な学習を支援する設備・システムの整備・充実を目指した計画を進めており、新潟大学学士力アセスメントシステム（NBAS）の開発により学修成果の可視化を実現している。さらに、平成26年度からの全学的な運用開始後も、教職員のファカルティ・ディベロップメント（FD）等を重ねながらシステムの円滑な実施に努め、学内外から必要な情報を収集してシステムの評価・改善に取り組んでいる。
-----	--